

# 徹底した弾圧を粉碎せよ！

抗議文

理院

本日（11月4日）理学部物理学科3回生は、彼らのクラス決議に基きスト中のクラス活動として、討論を行っていた。物理の教授連はこうしたクラスの全体の意志を無視して授業を强行しようとした。

それのみならず、学生がそれに応びないと見るや、木道隊を使って強制排除した。

クラス等自治組織の正当な決定を踏みにじったことならびに木道隊を圧力として用いたことについて  
柿木部長ならびに三宅・渡辺・中野教授それを許した他教員にガシ強く抗議する。

我々は、以後クラス討論をクラスの台頭に基づいておこなわれる場合には、教授ならびに教員はそれを認め  
る。

11月4日 理院協大会 62名中60名賛成

全ての学友諸君！として、今だ現在行われつつある正常化の本質を見ぬけないで授業を受けている諸君！  
昨日、理学部において行なわれた木道隊による弾圧をここに再現してみる。

11月1日 物Ⅲでスト決議を賛成11反対4保留2で採決した。彼らは、団交費後・医ロックラウト解除のために  
ストに突入したのだ。

11月4日 100%の内実を高めるためにクラス討論を行う。

100%中野が授業を強行。一緒に来た渡辺・柿木・南らは大學問題・カリキュラム・教角につい  
て語ることは授業妨害になるからと木道隊を呼び、退去命令を出す。木道隊は全武装、防石籠を持  
って侵入してくる。渡辺が、クラス活動者5名を指名し、木道隊は強制排除する。これに随つて約  
10名の放棄し、2名だけが授業を受ける。

大学当局は、やや遅れてひみた弾圧を、理・工・医・家に加えている。その結果は、「授業を1名でも受けた  
い」と言うなら、クラス決議も無視できる。」彼らは、まさにこの構造で授業を強行しているのだ。現場での  
我々の声！かけ、直ち、「現状での研究の病の意味は何か？」「現状で我々が受けている教育は、体制とい  
かにかかわり、いかに改革しなければならないか？」はまさに馬鹿騒ぐである。我々の声！がひとつたび、体制と  
深くかかわるや否や、そして改革をせまるや否や、彼らは体制の暴力装置たる木道隊をもって答へ、一方的に弾  
圧し、合理化に一きょに進まんとしている。

今、問われているのは、現状の正常化（？）路線の本質を見ぬけず、授業を無批判に受けている学生諸君であり、業務命令の網羅に従つて授業を行っている自称“革新的”教員である。諸君の今の態度が客観的に見て、いかなる役割を果しているかを考えて見たまえ。理・工・家の現状での声！の打開するのは諸君の立上りしかね  
ないのである。自称マルクス主義者諸君、そして自称科学者諸君／自らの論理の廉美を隠す者。

果して、「力」は勝利の十分条件であろうか？木道隊は体制のこの最大の勝利の十分な条件だろうか？答  
えは「ノン」である。アルジェでの声！、ベトナムでの声！。これは人民一人一人の手作りの勝利である。諸君、  
今こそこの杉本の地に、我々自らの身を、和算しよう、我々自身の数値の場を！（S）

変革を我らの手で！ 理院協書記局が6·20  
(工学部B525)に  
全ての学友は連絡せよ！